

教職員情報

連載第17回

京大植物園観察会

第52回 京大植物園観察会レポート
 2007年7月26日(木)12:05~12:55 雨のち曇り
 テーマ『虫たちのえさとすみか』
 ガイド:吉本 治一郎(京都大学農学部昆虫生態学研究室)

昆虫は、木や草の上、地中、水中などいろいろな場所で、さまざまなえさを食べながら暮らしています。どんな物を食べ、どんな所に住んでいるかという情報は、お目当ての虫を探す上で大きな手がかりになります。そこで、今回の観察会では、そのようなえさとすみかに着目して昆虫を探してみることにしました。

まず入口近くのボダイジュでハマキガの幼虫を観察しました。幼虫は葉をつづり合わせてその中で生活するため、「葉巻蛾」という名前が付いています。ハマキガには多くの種類があり、ボダイジュの他にもさまざまな植物の葉を利用しています。昆虫の中にはこのように自然にある材料を使って構造物を作り出すものがたくさんいます。



▲クモヘリカメムシ

東端の砂地では、美しい色をしたハンミョウを何匹か見つけることができました。ハンミョウは成虫・幼虫ともに捕食性で、幼虫は土の中に穴を掘り、近づいてきた虫をその中に引きずり込んで食べます。成虫は、神社や墓地のような地面が乾燥している場所によく見られます。

続いて、コナラの葉の上にいる昆虫を間近で観察するため、捕虫網を枝に被せて揺することで捕獲しました。このエリアに固まって生えているコナラ、クヌギ、アベマキはいずれも里山林の主要樹種で、非常に多くの昆虫がこれらの木を利用しています。残念ながら、今回はカメムシ数匹とクモぐらいしか採れませんでした。



▲ガイドの説明

最後に、池と水槽の周りでトンボの観察を行いました。水面を行ったり来たりしているのはコシアキトンボとオオシオカラトンボのオスで、こうして縄張りを守りながらメスを待ち伏せます。他のオスが縄張りに侵入してきた場合には、激しく追いかけて排除します。一方、草むらの低い所を飛んでいるのがモノサシトンボです。そして、水槽の周りにたくさんいた鮮やかなトンボがキイトンボです。どちらもイトトンボの仲間で、飛び方はゆっくりとしています。これらの種類は縄張り飛翔をせずに、もっぱら水辺の脇を飛び回っています。このように同じトンボでも種類によって行動が異なり、すみかもわずかに異なっているのです。

このように、短い時間ではありましたが、虫たちのすみかが多岐にわたっていることをお分かり頂けたのではないかと思います。京大植物園には多くの植物があるだけでなく、森、草むら、池というような異なる環境が存在するため、昆虫にとってのえ

さと住みかも豊富であると言えます。このことが植物園でたくさんの昆虫が暮らしてゆける大きな理由であると考えられます。

今回観察できた昆虫(本文中で紹介した種を除く)

アオバハゴロモの幼虫、ヘラクヌギカメムシ、クモヘリカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ、オンブバッタ、マメコガネ、チビタマムシの一種、エンマコガネの一種、ノコギリクワガタ(死骸)

京大植物園を考える会 <http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/>

「ひとつまえにもどる」

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..